

SDGs実現に向けて

「ESD・SDGsプログラム」

ハンドブック



特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば(略称 NPO環パちば)

この事業は、令和5年度地球環境基金助成金の助成を受けて実施しています



目 次

| | |
|--------------------------------|-------|
| ◆はじめに | 1 |
| ◆ESDとSDGsとの関係 | 2 |
| ◆ESD・SDGsプログラムハンドブックからお伝えしたいこと | 3 |
| ◆ESD・SDGsプログラム作成ESD地域リーダー紹介 | 4 |
| ◆ESD・SDGs プログラムページ | |
| 地球温暖化/エネルギー | |
| 1.昔カレンダー | 5 |
| 資源循環 | |
| 2.廃食油から学ぶエコせっけん教室 | 6 |
| 3.裂織コースターづくり | 7 |
| 4.生ごみリサイクル教室 | 8 |
| 5.さき布でぞうりを作ろう | 9 |
| 6.紙博士になろう！ | 10 |
| 7.ダンボールコンポストで地球の循環を知ろう！ | 11 |
| 水循環 | |
| 8.生命の源・水と旅して水マップをつくろう！ | 12 |
| 9.誰が川を汚したの（印旛沼バージョン） | 13 |
| 生物多様性 | |
| 10.浦安三番瀬をもっと知りたい | 14 |
| 11.オケラとトトキ（山で美味しいを体験する） | 15 |
| 12.親子初めてハゼ釣り教室 | 16 |
| 13.秋の草木の観察と畑の収穫 | 17 |
| 14.おや子生きもの探検 | 18 |
| 15.メダカ田んぼのお米づくり | 19 |
| 16.里山と生物多様性 | 20 |
| その他（まちづくり） | |
| 17.こどもたちとつくる！夏まつり | 21 |
| 18.五感で楽しむ森林浴 inner journey | 22 |
| 19.SDGs・ESDってなんだろう | 23 |
| 20.プラごみアート | 24 |
| ◆SDGs・ESDちば拠点づくり参加者紹介 | 25、26 |

はじめに

NPO/NGO、行政、教育関係、事業者（企業）などは、持続可能な社会を目指して、環境保全活動に取り組んでいます。

一方、私達が暮らしている地域社会では、自然環境の荒廃・少子高齢化・地域活力の低下・貧困・格差の拡大など、多様な問題が起きています。

これらの問題を解決するには、自ら課題を見つけ、学び、考え、客観的に判断し、他者と協力しながら課題解決に向けて行動する力が必要となります。ESD (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育) は、そういった力を身に着けるための学びです。(ESD環境教育モデルプログラム：環境省HPより)

さらに、2015年9月の国連サミットでSDGs「Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標」が採択され、2030年までの目標達成に向けた多様な主体の活動が求められています。

そこで、「特定非営利活動法人環境パートナーシップちば」は、2018年度から2020年度にESDプログラムづくりを通してESD地域リーダーの人材育成事業を千葉県内で展開しました。その結果44のESDプログラムと44名のESD地域リーダーが誕生しました。

今回は、これまでのプログラムの中から、プログラムを実施しての参加者、実施者の声、SDGへの繋がりなどを加えたプログラムハンドブックを作成いたしました。

環境保全活動や街づくり、学校など既に実施されている方への参考になれば幸いです。

SDGs・ESDを達成するための拠点づくりも2018年度から2023年度まで県内で話し合いを重ねて来ました。現在は南房総市を中心とした南拠点、千葉県北西部と県全域を繋ぐコア拠点ができました。今後はこれらの拠点を活用してSDGs・ESDの取り組みを進めてまいります。

持続可能な社会づくりは自分ごととして取り組むことが重要です。そのお手伝いの一つとして、当ハンドブックや、ESD地域リーダー、SDGs・ESDの拠点を是非活用頂けるようよろしく願いいたします。

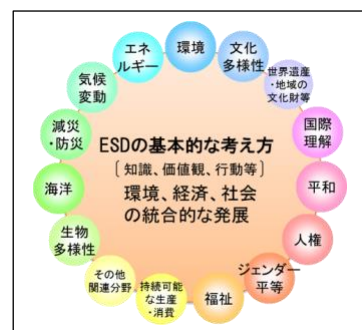
ESDとSDGsとの関係

1. ESD とは？

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。

ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。

つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。



2. ESDとSDGsの関係

ESDは、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で我が国が提唱した考え方であり、ユネスコを主導機関として国際的に取り組まれてきました。2015年の国連サミットにおいては、先進国を含む国際社会全体の目標として、「持続可能な開発目標（SDGs:Sustainable Development Goals）」が採択されましたが、SDGsは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、2030年を期限とする包括的な17の目標及び169のターゲットにより構成されています。ESDは、このうち、目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲット4.7に位置付けられました。一方で、ESDは、ターゲットの1つとして位置付けられているだけでなくSDGsの17全ての目標の実現に寄与するものであることが第74回国連総会において確認されています。持続可能な社会の創り手を育成するESDは、持続可能な開発目標を達成するために不可欠である質の高い教育の実現に貢献するものとされています。

3. 持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）

「国連ESDの10年（DESD）」（2005年～2014年）及び「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」（2015年～2019年）の後継として、2020年～2030年におけるESDの国際的な実施枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）」が、2019年11月の第40回ユネスコ総会で採択され、同年12月の第74回国連総会で承認されました。ESD for 2030は、ESDの強化とSDGsの17の全ての目標実現への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指すものです。

ESD for 2030の採択を受けて、本枠組み下で取り組まれるべき具体的な行動を示すロードマップがユネスコにより公表されました。ロードマップでは、5つの優先行動分野（1. 政策の推進、2. 学習環境の変革、3. 教育者の能力構築、4. ユースのエンパワーメントと動員、5. 地域レベルでの活動の促進）及び6つの重点実施領域（1. 国レベルでのESD for 2030の実施（Country Initiativeの設定）、2. パートナーシップとコラボレーション、3. 行動を促すための普及活動、4. 新たな課題や傾向の追跡（エビデンスベースでの進捗レビュー）、5. 資源の活用、6. 進捗モニタリング）が提示されるとともに、GAPからの主な変更点として、SDGsの17全ての目標実現に向けた教育の役割を強調、持続可能な開発に向けた大きな変革への重点化、ユネスコ加盟国によるリーダーシップへの重点化が謳われています。

（出典：文部科学省HP）

ESD・SDGsプログラムハンドブックからお伝えしたいこと

◆作成の目的と見方、活用についてのお願い

2018年から3年間のESDリーダー育成活動の中で、ESDプログラムは生まれました。県内で活躍している市民活動団体等のご協力を得て、各団体や個人が実施している環境学習プログラムを教材として、ESDの視点を学びました。

学習に参加した地域リーダーは、地球温暖化、生物多様性、資源循環、水環境の4つのグループに分かれ、ESDの視点の入ったプログラム作りを通して、ファシリテーター石井雅章氏のご指導によってこれまでのプログラムとの違いに気づき、ESDについて考え方を深めることができました。このESDプログラムを使って活動しながら、1年間の学びの成果を「ESDプログラム」ガイドブックとして取りまとめ、おかげさまで2020年までに44のプログラムを掲載したガイドブック3巻を発行することができました。

こちらは、当会ホームページからダウンロードできます。ガイドブックの中で、「ESDモデルプログラムづくりの流れとプログラムシートの読みかた」として石井氏が丁寧にわかりやすく解説してくださっていますので、ハンドブックを読む際の参考にもご活用ください。

<https://kanpachiba.com/sdgs-esdprogram>

地域リーダーとしてプログラムを使用してSDGs実現のためにESDを実践し、ブラッシュアップした後、提出していただいた報告をハンドブックに掲載させていただきました。具体の活動の様子がわかる写真等もプログラムの活動報告として見ていただければと考えています。

実践プログラムでのSDGs目標については、それぞれが連携して活動しているため、複数目標をつけていましたが、ESD・SDGsプログラムには主な目標として1つの目標掲載に統一させていただきましたことを付け加えさせていただきます。

ESDの基本的な考え方については、2018年～2020年のガイドブックからご覧いただければ幸いです。

2018年度から3年間、各自（団体）が持つ環境学習プログラムを、SDGs・ESDの視点を入れたプログラム作りを通して、ESD・SDGsをより意識するようになりました。

プログラムは3年間で44ありますが、そのうち実践プログラムとして20プログラムを紹介しています。ご覧頂き、参考にして頂ければ幸いです。またプログラムを活用したいなど当会へお問い合わせも受け付けておりますので、よろしくお願ひします。

皆様が地域の活動等に本誌プログラムを活用いただきました時には、お知らせと共に感想などがお送りいただけますと、つながり広がるプログラムとなるように期待しています。

◆問い合わせ・連絡先

環境パートナーシップちば事務局

電話番号：090 8116 4633

メールアドレス：info@kanpachiba.com

ESD・SDGsプログラム作成地域リーダー紹介

| | プログラム名 | 報告者 | 所属団体 | 出身地 |
|----|---------------------------|---------------|---------------------------|-------------|
| 1 | 昔カレンダー | 島野 圭司 | 温暖化防止うらやす | 東京都 |
| 2 | 廃食油から学ぶエコせっけん教室 | 小堀 功 | 環境保全 とんがらし座 | 東京都 |
| 3 | 裂織コースターづくり | 中村 明子 | NPO 法人環境パートナーシップ ちば | 京都府 |
| 4 | 生ごみリサイクル教室 | 津本 純子 | NPO 法人ビオスの会 | 東京都 |
| 5 | さき布でぞうりを作ろう | 畑山 文恵 | ファイバーリサイクルうらやす | 徳島県 |
| 6 | 紙博士になろう！ | 廣田 由紀江 | しろくまキッズ/こどもエコク ラブ | 東京都 |
| 7 | ダンボールコンポストで地球の循環 を知ろう！ | 松本 さやか | ガールスカウト千葉県第 12 団 | 千葉県 柏市 |
| 8 | 水と旅して水マップをつくろう！ | 平野 なおみ | みらい seeds (椎津川流域を愛する会) | 千葉県 市原市 |
| 9 | 誰が川を汚したの (印旛沼バージョ ン) | 小倉 久子 | NPO 法人環境パートナーシップ ちば | 千葉県 千葉市 |
| 10 | 浦安三番瀬をもっと知りたい | 今井 学 | 浦安三番瀬を大切にする会 | 富山県 |
| 11 | オケラとトトキ (山で美味しいを体 験する) | 横山 武 笹子 全宏 | 安馬谷里山研究会 | 千葉県 南房総市 |
| 12 | 親子初めてハゼ釣り教室 | 横山 清美 | 浦安水辺の会 | 東京都 |
| 13 | 秋の草木の観察と畑の収穫 | 城 順子 | あこぎ里山の会 | 大分県 |
| 14 | おや子生き物探検隊 | 桑波田 和子 | 八千代市はたるの里づくり 実行委員会 | 鹿児島県 |
| 15 | メダカ田んぼのお米づくり | 柴田加寿子 | ガールスカウト千葉県第 63 団 | 福島県 |
| 16 | 里山と生物多様性 | 手塚 幸夫 | 房総野生生物研究所 | 千葉県 いすみ市 |
| 17 | こどもたちとつくる！夏まつり | 村田 静枝 | ふろしき研究会千葉支部 | — |
| 18 | 五感で楽しむ森林浴 inner journey | 相川 千晶 | olaga/岩井駅前交流拠点 boccs | 京都府 |
| 19 | SDGs・ESDってなんだろう | 武田 みどり | 八千代市はたるの里づくり 実行委員会 | 大阪府 |
| 20 | プラごみアート創作活動 | 山口 俊也 | プロデザインスタジオ | 千葉県 南房総市 |

昔カレンダー



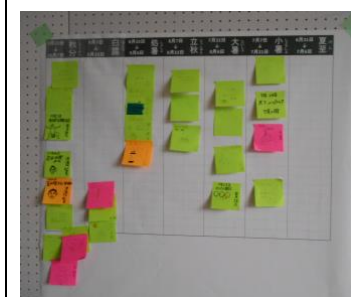
おすすめポイント：地球温暖化を自分事として実感する

参加対象：小学3～6年生、中学生、保護者&小学校低学年

所要時間：45～90分

プログラム作成者：温暖化防止うらやす（島野 圭司）

| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・季節の移り変わりを表す二十四節気から 季節の移り変わりが生き物、草花などの自然と密接に関係し、その変化が衣食住に影響をしていることを知る ・自分の食べ物、見た生きもの、草花、経験した行事などを自分カレンダーとして作ることから地球温暖化の影響で自然環境が今までとは違ってきていることを気づく ・このままではさらに進む地球温暖化と自分たちの生活との関係に気づき、生活行動を変えていくきっかけとする |
| <p>目標</p> | <p>季節感をキーワードに地球温暖化を自分事としてとらえ自分の生活、行動を見直すきっかけを作る</p> |



絵カード内容（食べた物、家庭、行事、スポーツ、誕生日、天気、見た生き物、植物）

＜プログラムの流れ＞

1. 導入・今日の授業の流れを紹介：四季はどうして起こるのか、二十四節気はどうして決められたのか、旧暦など関係がありそうな暦のことにもふれる
2. 二十四節気ボードの作成：授業前3か月間で起きたこと、経験したことを絵カードにしてもらう。二十四節気ボードに作成したカードをはる
3. 季節と自然や地球温暖化について説明：地球温暖化の自然環境への影響を知り地球温暖化を防ぐ。対応することに日々の生活が関係していることをクイズ、動画などを用いて説明
4. まとめ：付箋に書いた日々の生活と地球温暖化の関わりで気づいたことなどを生徒、参加者から発表

＜参加者の声＞

・ボードを作るのが楽しかった
 ・自分の誕生日がどの節気にあるかわかった
 ・食べた物が季節と関係していることがわかった
 ・地球温暖化で気候が変わっていることを知った
 ・自分でも地球温暖化を防ぐことができそうだ

＜実施者の声＞

・プログラムは小学校高学年以上でないと難しいと思っていたが、季節の草花、行事などのシールなどを準備すれば低学年でも楽しみながら学べる
 ・二十四節気ボードは立春、立夏、立秋、立冬を始まりの起点とする3か月単位が季節感ともつながり使いやすい
 ・地球温暖化の話の導入に食べ物の絵カードはなじみやすく、食品ロスなどのSDGsテーマへの発展もできる

廃食油から学ぶエコせっけん教室



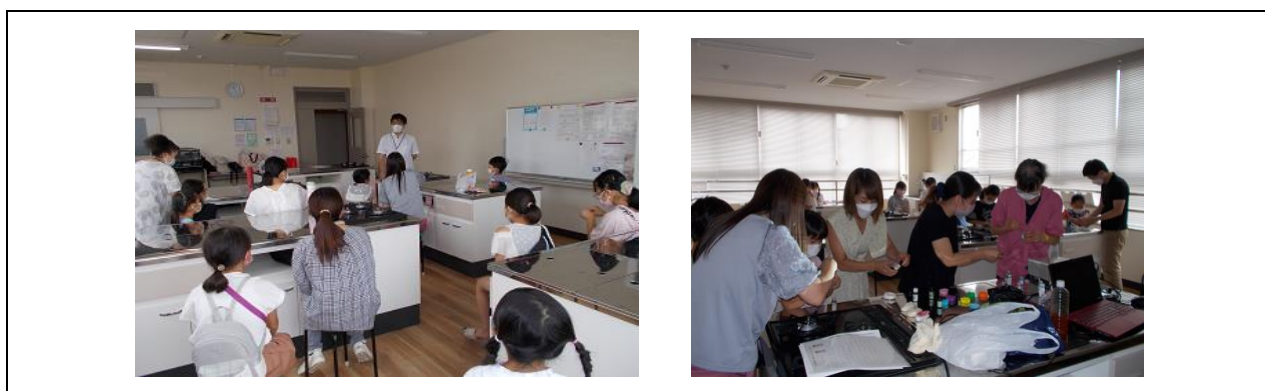
おすすめポイント：オリジナル石鹸を作ろう！


参加対象：親子（年長～小学生 20名）食紅&香料にアレルギーがないこと

所要時間：120分

プログラム作成者：とんがらし座（小堀 功）

| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>本講座から SDGs を学び、環境保全活動へ繋げていく</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center; background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">SDGs 推進活動としての廃食油リサイクル石けん</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;"> <p>7 廃食油由来の脂肪酸を石けんの原料に利用することで一般的に使用される石けんの原料となる植物系油脂を食用油脂に回すことが実現できます。天然資源の持続可能かつ効率的な利用の促進に貢献します。</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;"> <p>3 石けんを使い手洗することで清潔な暮らし、感染症予防に貢献します。</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;"> <p>12 廃食油由来の脂肪酸を石けんの原料に利用することで廃棄物(廃食油)の削減に貢献し、人の健康や環境への悪影響を最小化します。</p> </div> </div> </div> |
| <p>目標</p> | <p>将来を担う子ども達が本講座を受講後、環境保全（ゴミ、地球温暖化防止・水質環境対策）に対する考え方を身に着け、エコな行動に結びつく一助になればと考えます。</p> |



| | |
|--|---|
|  | <p><プログラムの流れ> 座学&エコせっけん教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化防止と水質環境への考え方 ・廃食油とカーボンニュートラルについて ・楽しいエコせっけん教室と気づき感想文（食べ物、親への感謝、これからの行動） |
| <p style="text-align: center;"><参加者の声></p> | <p style="text-align: center;"><実施者の声></p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・座学が、わかりやすく工作教室も子どもの頃に戻って楽しくエコを学びました（母親） ・せっけんでお団子、お花をカラフルに作れて楽しかったです。また来たいです（子ども達） | <ul style="list-style-type: none"> ・作った石鹸と配布資料から記憶に残る環境イベントとして楽しんで頂ければと考えています。 |

裂き織りコースター作り



おすすめポイント：古布のリサイクル


参加対象：大人、子ども（小学生以上）

所要時間：120分

プログラム作成者：NPO 法人環境パートナーシップちば（中村 明子）

| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>シャツやハンカチなどの古くなった布地を、裂いて織るという昔ながらの手法で、蘇らせませます。織機は、家になる身近な材料で作ります。また、リサイクルは「ごみを減らす」「ものを大切にする」気持ちにつながります。</p> |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・昔、布は貴重品だったこと、繕い（接ぐ、あて布、刺し子など）ながら使い、裂き織で作り替え、最後は燃料として火にくべるなど、使いつくしていたことを再確認する。 ・簡単な道具で織物を作ることを体験する。 ・手仕事を楽しむ。 |

| | |
|--|---|
|  <p>小学生の作品</p> |  <p>織機</p> |
|--|---|

| | |
|---|---|
|  | <p><プログラムの流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は布を使いつくしていた ・布のつくり（織物、編み物） ・織機の説明（ダンボールなど、身近なものを利用） ・裂き織り体験 ・作品鑑賞 |
|---|---|

| | |
|---|--|
| <p><参加者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・布を裂くのが面白い。 ・作業が大変だったが、出来上がった作品がご褒美。 ・簡単な道具でできるのがいい。 | <p><実施者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通は「破ってはいけない」布を、びりびり破くのは、楽しい体験です。 ・作業は単純ですが、それぞれ個性的な作品が出来上がります。 |
|---|--|

生ごみリサイクル教室

おすすめポイント：生ごみは資源

参加対象：小学生4年生

所要時間：45分

プログラム作成者：NPO法人ビオスの会（津本 純子）



| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>生ごみを土に埋めるとどうなるかなー？小学生用テキスト「大すき！カレーライス」を読んでから、実際に使われている生ごみ処理容器に生ごみを入れる体験をします。牛乳パックやペットボトルを使って簡単にできる実験の方法を紹介します。</p> |
| <p>目標</p> | <p>・生ごみは微生物の働きで栄養豊富な土になることを、実際に体験して確かめる</p> |



| | |
|--|--|
| | <p><プログラムの流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む ・生ごみを家庭で処理するとどんないいことがあるの？ ・どうやって生ごみを土にするの？ ・微生物の働き ・生ごみ処理容器とその使い方 ・簡単な実験方法 |
|--|--|

| | |
|--|--|
| <p><参加者の声></p> | <p><実施者の声></p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを土に埋めると栄養があると知って興味を持ってました。 ・ぼくも生ごみ処理をしたくなりましたし、夏休みの自由研究のヒントになりそうです。 ・牛乳パックにつめて家の人と土になる日をまだかまだかと楽しみに待っています。 | <p>・1時限（45分）の授業の中では生ごみが土になるまでの体験学習ができないので、ぜひ牛乳パックなどの実験に取り組んでほしい。</p> |

さき布でぞうりを作ろう

おすすめポイント：身近で“楽しい”リサイクル体験

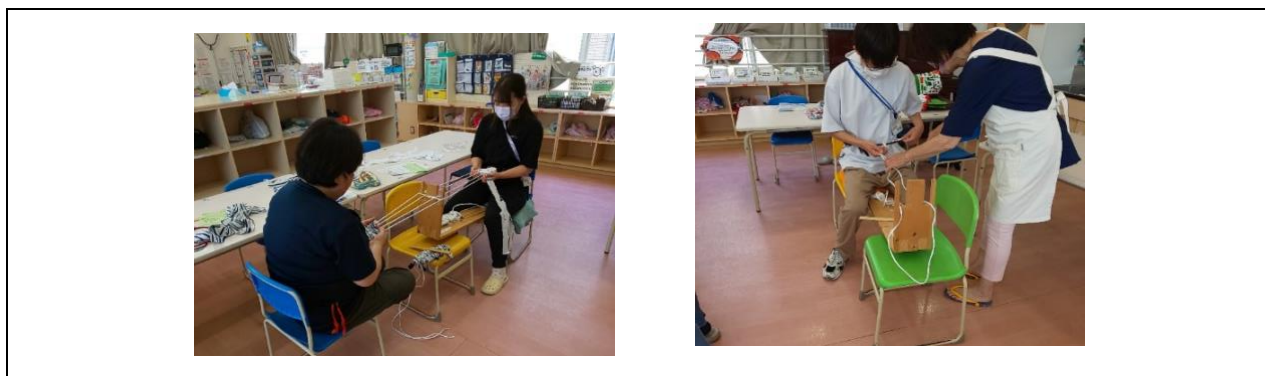
参加対象：日の出南小学校児童育成クラブの指導員


所要時間：4～5 時間

プログラム作成者：ファイバーリサイクルうらやす（畑山 文恵）



| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>古着リサイクルの方法としてさき布で簡単なダンボール枠を使ってのコースターとじっくり布ぞうりを作ります。1枚の布がぞうりに生まれ変わることを楽しみながら体験していただきます。今回は指導員向けに行いましたので、こどもたちにアップサイクルの楽しさも伝えていただけるよう配慮しました。</p> |
| <p>目標</p> | <p>普段こどもたちに接している指導員の方々には、リサイクルに興味を持っていただきたいと思います。いっしょに布ぞうり作りを体験することで、こどもたちにもつたない気持ちやリサイクルに対する興味が芽生えるよう、指導をお願いしたいです。</p> |



| | |
|--|---|
|  | <p><プログラムの流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古着リサイクルのお話し 2. 布ぞうりを作る上でのコツとワザ 3. 裂き織りについて 4. 実習 5. 作品発表 |
| <p><参加者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちにリサイクルの楽しさを伝えられるよう、頑張ります。 ・伝統のワザは奥が深いと思いました。 | <p><実施者の声></p> <p>今回、直接こどもたちにアプローチできる講座ではなかったのですが、どれだけ指導員さんに伝わったか、わからないのが不安材料です。</p> |

紙博士になろう！

おすすめポイント：紙が出来る仕組みを知り、世界でたった1枚の紙を作る

参加対象：小学4年生、小学生以上の親子、中学2年生

所要時間：90～120分

プログラム作成者：しろくまキッズ/こどもエコクラブ（廣田 由紀江）



| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>紙すきは、リサイクル工作として多くの人が体験したことのあるプログラムだと思います。「自分たちの暮らしとのつながりを知り、どうしたら持続可能であるか考え、行動につなげたい」と思い、年齢や主催者の希望、授業のねらいに合わせたプログラムを実施しています。</p> |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・紙すきを行うことで、紙が作られる過程や仕組みについて学ぶ。 ・再生し使う「資源循環」の大切さや、生活の中で自分にできることを理解する。 |



| | |
|--|--|
| | <p><プログラムの流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「紙＝森林資源」「リサイクルが温暖化防止につながる」ことを知る 2. 牛乳パックからパルプを取り出す 3. 紙すきで、パルプから紙を作る体験をする。紙が作られる過程について学び、再生し使う「資源循環」の大切さを実感する 4. 窓に貼って乾かす。電気を使わないので省エネになることを知る |
|--|--|

| | |
|---|---|
| <p><参加者の声> (小学1年生の自由研究から)</p> <p>はながみの色を自分で選んできれいな色が作れたり、ハガキを乾かすのに窓に貼ったのが楽しかったです。アイロンではなく太陽で乾かせると教えてもらい、リサイクルは地球のみんなでやらないといけないと思いました。リサイクルはやることもたくさんあって時間もかかります。水や電気を使いすぎないようにすることも、地球を守る事につながると気づきました。</p> | <p><実施者の声></p> <p>いろいろな事に気づいて、体験を楽しんでくれることが一番うれしいです。楽しかった事や発見した事を覚えていてくれたらいいなと思います。</p> |
|---|---|

ダンボールコンポストで地球の循環を知ろう！



おすすめポイント：地球の循環を知る


参加対象：小学生とその家族 10 組

所要時間：120 分

プログラム作成者：ガールスカウト千葉県第 12 団（松本 さやか）

| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>家庭から出る燃えるごみの約 30%は生ごみです。その生ごみの 90%が水分。生ごみが減れば焼却炉でごみが燃えやすくなり、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素（CO2）が出る量も減るので環境にも優しいのです。その生ごみを減らす取り組みとして、ダンボールコンポスト作りに挑戦します。</p> |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールコンポストを地球と見立て、循環のシステムを学ぶ ・柏市のごみ政策の現状を知り、地球環境をより良いものにするため、地域でどんなアクションを起こせるか考える機会とする。 |



| | |
|---|---|
|  | <p><プログラムの流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前学習：1 か月間燃えるゴミがどれくらい出ているか調査する ○当日・フードロスについて学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・柏市のごみ政策はどうなっているの？どれくらいのごみが燃やされているの？ ・ダンボールコンポストのしくみを学ぶ ・ダンボールコンポストを作ってみよう！ ・どれくらいゴミが減らせるか考えてみよう |
| <p><参加者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べる前に捨てられている食べ物や燃やされているごみの量がこんなにあるなんて知らなかった。 ・生ごみはバクテリアが分解してくれるので、ダンボールコンポストを続けたいと思った。 | <p><実施者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日出るごみの量と廃棄されている量を知ることと、地球の循環を知ること、工夫次第でゴミを減らし、地球温暖化などを防ぐアクションが出来ること知ることができた。 |

水と旅して水マップを作ろう！

おすすめポイント：川のせせらぎ 流域散歩

参加対象：一般 10～15名程度

所要時間：4～5時間

プログラム作成者：みらい seeds 椎津川流域を愛する会（平野 なおみ）



| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>大地に降った雨は高いところから低いところへ大地を伝わって川に集まり、海へと流れていきます。どの場所も、どこかの川の流域（集水域）に属し、水でつながっています。都市で暮らしていると、水のつながりを意識しにくいですが、源流から河口まで水と旅して、水のつながりを体感してみよう！</p> |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・流域（集水域）を理解し、水のつながり、水循環を体感する。水害が起こる仕組みを体感する。 ・足元の自然とつながるきっかけをつくる。 |

| | |
|--|---|
| | |
| | <p><プログラムの流れ> 午前：イントロダクション 水の旅（源流から中流） 午後：水の旅（中流から河口干潟） ふりかえり</p> |
| <p><参加者の声></p> | <p><実施者の声></p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・心地よい川のせせらぎは久しぶり。 ・川の合流点を観察できたのは初めて。 ・椎津川は人との距離が近い川。 | <ul style="list-style-type: none"> ・延長7kmの椎津川は水のつながり、流域を学ぶ絶好のフィールドミュージアム。 ・椎津川で体験した後、ご自分が暮らす足元の川、自然とつながってほしい。 |

誰が川を汚したのー印旛沼バージョン



おすすめポイント：日常生活が水の汚染に繋がっている事を知る

参加対象：小学生以上大人まで

所要時間：2時間程度

プログラム作成者：特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば（小倉 久子）

| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・水を張った水槽を印旛沼に見立て、その中にシナリオに沿って、参加者全員が「汚れ」を入れていく。 ・参加者が「汚れ」を投入していくうちに「印旛沼（水槽）」の水はどんどん汚れていき、自分の行動も印旛沼を汚していることの一つであることを知る。 |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・水の汚染と関係なさそうな私たちの日常生活が、水を汚す可能性も持っていることに気づく。 ・誰でも印旛沼を汚しているかもしれないということに気づき、「自分ごと」として沼の汚染について考える。 |

| | |
|--|--|
|  <p>水がきれいだった頃の「印旛沼」</p>  | <p><「汚れ」の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨の濁流⇒土 ・トイレの排水⇒お茶 ・畑の肥料⇒食塩 ・あやしい液体⇒ソース ・排気ガス⇒コーヒー |
|  | <p><プログラムの流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・印旛沼が汚れていく過程のシナリオを作成しその中にいろいろな「汚れ」を入れ込む。 ・参加者全員に「汚れ」の入った容器を配る。 ・スタッフがシナリオを読み上げ、参加者は自分の汚れが登場したところで、水槽（印旛沼）に汚れを投入する。 ・シナリオを読み終わった時、水槽の水は濁って汚れており、それを見て、印旛沼の水は自分たちの行動によって汚れたのだと気づく。 ・印旛沼をよくするための行動を、自分ごととして考えることができる。 |
| <p><参加者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全然関係ないと思っていたことが、印旛沼の水質を悪くしているのだと、よくわかった。 ・いろいろなことが原因で、印旛沼は<u>すごく汚く</u>なりました。 | <p><実施者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・印旛沼の汚濁を自分ごととして考えてもらえたが、インパクトが強すぎて、「印旛沼はきたない」という印象を与えてしまった。 |

浦安三番瀬をもっと知りたい！

おすすめポイント：身近な自然環境に触れる

参加対象：小学生以上

所要時間：120分

プログラム作成者：浦安三番瀬を大切にする会（今井 学）



| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>普段意識することがない身近な自然環境（三番瀬）が持つ意味とそこに生息している生物を知ることにより人間が享受している自然からの恩恵と人間が及ぼす自然への影響について考える機会を提供する。</p> |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学習者が海辺の生き物に関心を持つようになる。 ・学習者が干潟の浄化能力を学習できるようになる。 ・学習者が干潟や浅海域の重要性を考える。 ・学習者が環境保護の方法を習得する。 |



| | |
|--|---|
| | <p><プログラムの流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.三番瀬の地理や規模、潮の干満のメカニズムと生き物の関係を理解する 2.安全面における注意事項を確認する 3.生き物採集 4.生き物を観察 5.振り返りとして人間が自然界に及ぼす影響と人間が出来ることを考える |
|--|---|

| | |
|---|---|
| <p><参加者の声></p> <p>・最初は何もいないと思っていたが色々な生き物がいてびっくりした。・子どもが生き生きとしていたのが良かった。・三番瀬を大切にしたいと思った。</p> | <p><実施者の声></p> <p>身近な自然を体験できる貴重な場所を、参加者に知ってもらうことが三番瀬の今後に大きく関わって来れると思うので、今後も活動を継続していきたい。</p> |
|---|---|

オケラとトトキ～山で美味しいを体験する～

おすすめポイント：里山の恵みを体験できる

参加対象：小学生以上（5名～40名）


所要時間：2時間

プログラム作成者：安馬谷里山研究会（横山 武/笹子 全宏）



| | |
|----------|---|
| プログラムの概要 | 普段意識する事が無い身近な自然環境（里山）を知ることで、人間が享受している里山からの恩恵と人間が及ぼす里山への影響を体験する。 |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習者が里山の食の恵みを知る ・学習者が環境保護の担い手になる |



| | |
|---|---|
|  | <p><プログラムの流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明（スケジュールと安全について） ・徒歩で安馬谷里山へ向かう（途中神社・寺・遺跡など見る） ・里山に入り、生き物にも人間にも恵みのある里山づくりの現場を見て体感する。 <p>※オケラやトトキなど食べられる食草を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安馬谷里山研究会の里山への取り組みについて紹介。 ・ふりかえり。 |
|---|---|

| |
|--|
| <p><参加者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山の中を歩くのが楽しかった。 ・30年近く里山保全のへ熱い思いを知ることができた。 ・人の手で守られた里山は、恵み豊かだと体感した。 |
|--|

| |
|--|
| <p><実施者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5人の人から、今までのハイキングで一番楽しかったとお礼の言葉があった。 ・安馬谷の里山の恵みを共有できた。 |
|--|

親子はじめてハゼ釣り教室

おすすめポイント：親子の釣りしたいを学びにつなげる

参加対象：身近に水辺がある小学生以上の親子2名1組（募集定員20組）

所要時間：200分（含：移動時間）

プログラム作成者：浦安水辺の会（横山 清美）



| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>身近な川で、ハゼ釣りがしたいと思っている親子に呼びかけて、毎年20組限定で団体「浦安水辺の会」が募集しての「親子はじめてハゼ釣り教室」。</p> <p>対象の子どもにとっては、一生に一度の機会、親も子も本気度が強いことを活用して、プログラムを実施しています。安全教室・ハゼの生態・ハゼの釣り方を学んだ後、川で釣りにチャレンジするプログラムです。</p> |
| <p>目標</p> | <p>学習者が「ふるさとの海」東京湾を目指して、安全・安心に水辺の活動ができ、ハゼ釣りを通して気づいたことで自分たちに何ができるか考え暮らしを変えることに繋がります。</p> |



広報チラシとハンドブック

<プログラムの流れ>

- 1.本日の目的と流れ
- 2.水辺の安全講習会
- 3.ハゼのことを知ろう
- 4.ハゼの釣り方を学ぶ
- 5.ハゼ釣り実習（成功体験）
- 6.川辺の状態（ゴミ）に気づき行動
- 7.ハゼの調査（体長を測る）
- 8.ふりかえり（学んだこと・嬉しかったこと・これからしたいことなど親子で相談して書いてみる。発表する。）

<参加者の声>

- ・釣るのは難しかったけど、釣れたときは楽しかった。
- ・釣るのは思ったより難しかった。
- ・釣る時竿が重かったが、楽しかった。
- ・お父さんより多く釣れたことが嬉しかった。
- ・1匹しか釣れなかったが、他の人からいただいて、楽しかった。

<実施者の声>

2021年の教室の様子は、江戸前はぜ復活プロジェクトのサイトでも紹介されました。

<https://mahaze.suisanshinkou.or.jp/event.html>

参加者を継続して確認することはできませんがハゼ釣りは親子の水辺体験の一步と捉えています。

秋の草木の観察と畑の収穫

おすすめポイント：里山体験

参加対象：成田市内小学生以上の親子2名1組（定員15組）

所要時間：360分（含：昼食時間）

プログラム作成者：あこぎ里山の会（城 順子）



| | |
|----------|--|
| プログラムの概要 | 毎月1回開催、1年を通じて里山の四季を感じ、田んぼでの稲作、森に入り散策する。里山に入ることで自分たちの住んでいる住宅街と里山の環境との違いを学ぶ。また、里山の生物の多様性を知ります。 |
| 目標 | 里山に入る事で、田んぼの1年の活動を紹介、そこに生きる生き物の多様性を知る秋の植物、自然の実りをいただき季節を感じる。 |



<プログラムの流れ>

- 1.本日の目的と流れ
- 2.森に入る前の安全講習
- 3.里山の田んぼの四季を知る
- 4.森に入る
- 5.草木、木の実、実りを楽しむ
- 6.振り返り

<https://www.facebook.com/gogoadventureNARITA/>

<参加者の声>

<実施者の声>

・家の周りにこんなに木があるところがないのでその中に入っていくのが楽しかった。いろんな実や葉っぱがあることを知った。

子どもたちが自然観察をしながら、周りの生態系を知る機会となり、環境を保全の意識が育つことを願っています。

おや子生き物探検隊

おすすめポイント：ワクワクする生き物探し体験

参加対象：親子 10 組 (20 人) から 15 組 (30 人)

所要時間：120 分

プログラム作成者：八千代市ほたるの里づくり実行委員会 (桑波田 和子)



| | |
|-----------------|--|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>季節（春・夏・秋・冬）毎におや子で生き物探検します。生き物が住んでいる場所、季節の違い、生き物の成長などを体感します。</p> <p>また、生き物が住んでいる環境（池、田んぼ、斜面林、道路、環境整備作業他）とのつながりなどに気づきます。おや子で探検すると情報や思いを共有します。</p> |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・季節毎の生き物探検を通して、生き物への関心が深まる。 ・多様な生き物がすむため、周囲の自然環境の大切さと保全・再生に取り組む人がいることを知り、自分たちができることを見つける。 |



＜プログラムの流れ＞

- （春）春の昆虫・水辺の生き物を探そう
- （夏）夏の夜の生き物探し
- （秋）トンボ池の中を見てみよう
- （冬）冬の生き物、何がいるのか探してみよう

＜参加者の声＞

- ・どんな生き物を探せるか楽しみ。・季節が違おうと見つける生き物も違う。・子ども達が安心して探検できる場所があるのはうれしい。
- ・自分が子どもの頃より、生き物が減ってきていると思う

＜実施者の声＞

- ・子ども自身で生き物を探せるようにサポートすることが大事。
- ・子ども達が成人になっても里にきてほしい。

メダカ田んぼのお米づくり

おすすめポイント：お米づくりから暮らしを見つめる

参加対象：小学生親子 10～15 組（30 名程度）

所要時間：1 年（1 回 2 時間程度）

プログラム作成者：ガールスカウト千葉県第 63 団（柴田 加寿子）

（協力：神崎川を守るしろい八幡溜の会／白井市環境課）



| | |
|-----------------|--|
| <p>プログラムの概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・種もみ育て・田植え・草取り・稲刈りなど 1 年を通してお米づくりの体験をする。 ・田んぼや川にいる生きもの観察や、川の周りのゴミひろいなどを通して、生きものと自然環境のつながりに気づく。 ・収穫したお米でクッキング、稲わらでしめ縄作りなどをして、昔から続く人の暮らしを体験する。自然や食に対して生まれる感謝の気持ちを共有する。 |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・1 年間の稲作体験を通して、稲作の苦労や工夫を知り生きものや自然環境への興味が深まる。 ・稲作に支えられた日本人の暮らしや、現在の自然と人の生活を考えて、未来のために自分の暮らしの中からできることを見つけられるようになる。 |

| | |
|---|---|
| | |
| | <p><プログラムの流れ>お米づくり</p> <p>4 月 種もみ育て 6 月 田植え 8 月 生きもの観察会 11 月 稲刈り 12 月 収穫祭（しめ縄リース作り） 1 月 収穫祭（クッキング）1 年間のふりかえり 2 月 川のゴミひろい</p> <p>※コロナ禍の収穫祭はしめ縄リース作り。会食が可能になってからはクッキングを実施</p> |
| <p><参加者の声></p> | <p><実施者の声></p> |
| <p>・田植えの時、田んぼの泥が最初気持ち悪かったがだんだん楽しくなった ・田んぼにニホンアカガエルがいた ・昔の道具で脱穀したが全部これでやったらたいへんだと思った ・しめ縄リース作りが楽しかった（子ども）しめ縄リースの藁打ちがたいへんだった（おとな） ・自分で育てたお米で作ったおはぎやお赤飯が特別においしかった ・これからごはんを残さず食べようと思った</p> | <p>・地域に活動を知らせるために子どもたちが自分で壁新聞やクイズを作ったり、夏休みの課題に観察日記をつけたりして積極的に取り組んでいた。 ・コロナ禍の夏休み中、親や祖父母の時代の夏の暮らしを聴き取りして調べたことを発表し合い、地球温暖化のことを考えるきっかけにもなった。</p> |

里山と生物多様性

おすすめポイント：お米づくり・水辺の生きもの調査・地域の昔と今を調べる

参加対象：小学校高学年用の授業&体験学習プログラム

所要時間：2～25 時間

プログラム作成者：房総野生生物研究所（手塚 幸夫）



| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>1. 有機稲作体験や田んぼの生きもの調査を通して、農業が里山の生物多様性を高め様々な生物と共生してきたことを学びます。</p> <p>2. 山・川・社寺などの探検を通し、里山の昔と昔、自然や歴史、生活について学びます。</p> <p>3. 生物多様性を支える共生の概念について考えたりディスカッションしたりします。</p> |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自然と共生する暮らしについて考えることがテーマです。 ・生物多様性は単に生物の種類が多いことを表す言葉ではなく、いろいろな生物がいろいろな関係を作りながら共生することで成り立つものであることを理解させたい。 ・半世紀前の里山の暮らしと生産活動をふり返り、持続可能な地域づくりについて考えさせたい。 |



| | |
|--|--|
| | <p><プログラムの流れ></p> <p>全部で16項目からなるプログラムです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で実施する場合は、総合的な学習の時間等を活用し、数項目から全項目まで実情に応じて選択できます。 ・学校以外の単発の観察会や学習会などで活用する場合は地域の実情や参加する子供たちの関心に合わせて1～2項目を選んで実施するとよいでしょう。 |
|--|--|

| | |
|---|---|
| <p><参加者の声> (小学5年生の感想より)</p> | <p><実施者の声></p> |
| <p>・無農薬の田んぼや水路にはたくさん生き物がいきました。生きもののことを考える農業がたいせつだと思いました。・自分が食べるお米を自分で作ることができてよかったです。おいしく食べました。・授業を受けていろいろな生き物がいっしょに生きていくことで生物多様性が作られることがよく分かりました。</p> | <p>基本は学校での授業ですが、子供会などの体験や観察をするためのプログラムとしても活用できます。</p> |

こどもたちとつくる！夏まつり

おすすめポイント：子どもが自ら考える

参加対象：地域の子どもたち・手伝いたいと自ら来た子どもたちと運営


所要時間：必要に応じる

プログラム作成者：ふろしき研究会千葉支部（村田 静枝）



| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと一緒につくる！だがしや ・やりたいと思ったことをやってみる場 ・やり方、進め方など、子どもたちに任せる ・大人は子どもが主体的に動けるような環境を作る |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちで考え、実行する、やってみる ・子どもたちが考えたやり方で実施 |



| | |
|---|---|
|  | <p><プログラムの流れ></p> <p>夏まつりに子どもたちが出店！</p> <p>【わりばしてっぼう 1回10円だよ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回10円で3発撃てる ・お金を払うと、割りばし鉄砲と輪ゴム3つが渡される ・スタート位置からの的を狙う (小さい子は前方から撃つ) ・倒した的の番号で景品がもらえる |
| <p><参加者の声></p> | <p><実施者の声> (運営したこどもたちの声)</p> |
| <p>大人もやっていいの？来年は作るの（運営側）をしたい！</p> | <p>来年もやりたい！</p> |

五感で楽しむ森林浴 inner journey

おすすめポイント：メンタルヘルスの向上を意識した森林浴プログラム

参加対象：子どもから大人まで、少人数（6名くらいまで）

所要時間：2時間半～

プログラム作成者：olaga 森林浴ファシリテーター（相川 千晶）



| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源である森林や海を人が癒やされる場所として活用する。自然が特別な場所ではなく、日常にあるという認識から自然環境問題にも自分ごととして目を向けていく ・森林セラピー基地に認定されている森で、自分の健康状態、メンタルヘルスのセルフケア方法について学ぶ。 |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が自身のメンタルヘルスを向上させることができる ・参加者が森林浴を通じて森や自然のことを知るきっかけになる ・参加者が社会とつながることの意味を知る |

| | | | | | |
|---|--|----------------------|----------------------|---|--|
| | <p><プログラムの流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.集合／アイスブレイク：健康セルフチェック（自分の今日の状態を知る） 2.森に入る：聴覚のワーク（耳を澄ます、風の音を聞く、鳥の声を聞く） 3.森に入る：嗅覚のワーク（植物の匂いを嗅ぐ） 3.森に入る：視覚のワーク（海岸線、遠くを見る） 4.森に入る：触感のワーク（裸足になり、砂浜と海の中を歩く） 5.森に入る：森林浴体験（ボディスキャン・安静） 6.森に入る：味覚のワーク（マインドフルイーティング） 7.振り返り：クレヨンと紙を使う。言葉を使わないアウトプット 8.感想シェア／解散 <p>https://www.facebook.com/olagaplay</p> | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="164 1585 719 1641"> <p><参加者の声></p> </td> <td data-bbox="719 1585 1436 1641"> <p><実施者の声></p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="164 1641 719 1879"> <p>森を五感で歩くというのが初めての体験だったけれど楽しかった・ここに来て本当に良かった！・こんなに葉っぱを身近で観察したことなかった・水に足をつけるなんて何年ぶりだろう・子どもの頃に帰ったみたい・最高の体験です</p> </td> <td data-bbox="719 1641 1436 1879"> <p>森林浴のあと、目や頭がすっきりしたという声が多かった。振り返りの時間がしっかり取れてよかった。</p> </td> </tr> </table> | <p><参加者の声></p> | <p><実施者の声></p> | <p>森を五感で歩くというのが初めての体験だったけれど楽しかった・ここに来て本当に良かった！・こんなに葉っぱを身近で観察したことなかった・水に足をつけるなんて何年ぶりだろう・子どもの頃に帰ったみたい・最高の体験です</p> | <p>森林浴のあと、目や頭がすっきりしたという声が多かった。振り返りの時間がしっかり取れてよかった。</p> |
| <p><参加者の声></p> | <p><実施者の声></p> | | | | |
| <p>森を五感で歩くというのが初めての体験だったけれど楽しかった・ここに来て本当に良かった！・こんなに葉っぱを身近で観察したことなかった・水に足をつけるなんて何年ぶりだろう・子どもの頃に帰ったみたい・最高の体験です</p> | <p>森林浴のあと、目や頭がすっきりしたという声が多かった。振り返りの時間がしっかり取れてよかった。</p> | | | | |

SDGs・ESDってなんだろう

おすすめポイント：親子で一緒に自然体験する事で保全のため一緒に成長する

参加対象：小学生以上の親子 20名程度

所要時間：120分

プログラム作成者：八千代市ほたるの里づくり実行委員会（武田 みどり）



| | |
|-----------------|--|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>①SDGs・ESDのカードやパネルを使ってお話を聞き遊び感覚で参加 ②ほたるの里の生き物を捕まえ観察 ③参加者、スタッフとの交流、学び</p> |
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ほたるの里の生き物と周りの環境を知り未来を考える ・ほたるの里のメイトになって一緒に活動してもらえる ・ずっとこの生活環境が続くようにみんなで努力する |

| | |
|---|--|
| | <p><プログラムの流れ></p> <p>(2020年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsカードを使って困っている事を分類してカードに貼り付けみんなで解決案を話し合う ・ほたるの里探検 感想 <p>(2021年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsボードを使ってお話しとゲーム ・2班に分けてほたるの里の成り立ちや植生、水辺の生き物、昆虫等観察 ・発表 <p>(2023年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsカードでお話し ・ほたるの里マップと記入表に、見つけた生き物について、図鑑等で自分で調べる。 ・見つけた物などを発表する。 |
| <p><参加者の声></p> | <p><実施者の声></p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・身近な事をみんなでお話したり虫取りをして楽しかった ・会議室でなく緑いっぱいの里で生き物と触れ合えて親子とも大切な知識になった | <p>参加者の自主性を大切にスタッフは見守りと応答とし子どもの興味を引き出した</p> |

プラごみアート創作活動

おすすめポイント：楽しみながら、学びに繋げる

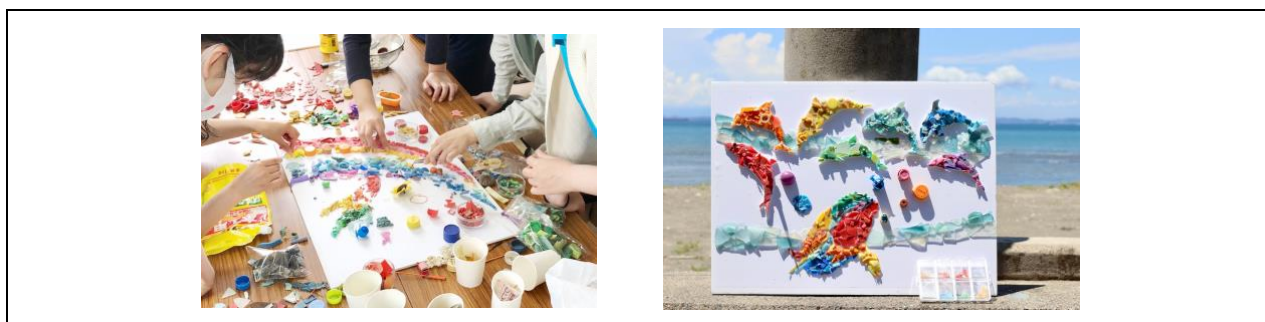
参加対象：老若男女問わず誰でもお待ちしております

所要時間：90分：千葉市 <9:30~11:00> 南房総地域 <10:30~12:00>

プログラム作成者：プロデザインスタジオ&千葉愛の教会（山口 俊也）



| | |
|-----------------|---|
| <p>プログラムの概要</p> | <p>千葉市と南房総地域で月に1回ずつ海岸清掃を行い、自然を感じながら活動を通して参加者との交友を深め、地域の活性に繋がる活動としています。</p> <p>拾ったゴミを活用し、材料としてアート作品を作ることで認識の転換をさせ、情報発信のツールとしてメッセージを発信していきます。</p> |
| <p>目標</p> | <p>楽しんでもらう事。やりがいを感じてもらう事。気づきのきっかけにしてもらう事。生活に変化を生み出す事。そして、自分事にしてもらう事。</p> |



| | |
|--|--|
| | <p><プログラムの流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動の目的と流れ 2. プチ環境問題レクチャー 3. 清掃活動（ゴミ拾い、プラごみ拾い） 4. ゴミの分別 5. 全体写真 6. プラごみの色分け作業 7. プラごみアート制作 8. 総評 |
|--|--|

| | |
|---|---|
| <p><参加者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなゴミにしか目が行かなかったけど、小さなゴミに意識を向けてみると意外と多いことが分かった。 ・色とりどりのゴミがあることが発見だった。 ・みんなで作品が作れて良かった。 ・楽しかった。 | <p><実施者の声></p> <p>参加者の皆さんと100回を重ねる活動になってきました。毎回100人以上の参加者を目指し、学生さん達とも力を合わせ、フレッシュに活動します。皆が楽しく、やりがいを持って、このまちと人を好きになってもらえたらと思います。環境もキレイに！心もキレイに！</p> |
|---|---|

SDGs・ESD ちば拠点づくり参加者紹介

| 拠点 | 氏名 | 所属団体 | 活動範囲 | ★ESD 地域 リーダー |
|----|----------------|-----------------------------------|-----------------------|--------------------|
| コア | 石井 雅章 | 神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 教授 | 千葉市/全国 | |
| コア | 島田 幸子 | 関東ESD活動支援センター | 関東 | |
| コア | 鬼沢 良子 | NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネット | 全国 | |
| コア | 近藤 昭彦 | NPO 法人水環境研究所 | 千葉県全域 | |
| コア | 伊藤 道男 | NPO 法人ちば里山センター | 千葉県全域 | |
| コア | 手塚 幸夫 | 房総野生生物研究所 | いすみ市 | ★ |
| コア | 江崎 亮 | いすみライフスタイル研究所 | いすみ市 | |
| コア | 平野 なおみ | みらい seeds (椎津川流域を愛する会) | 市原市 | ★ |
| コア | 千葉 美賀子 | (一社)もりびと | 長南町/近隣市町村 | ★ |
| コア | 橋本 修一 | (一社)再生可能エネルギー事業協会 | 大網白里市 | |
| コア | 井上 守 井上 千代子 | オオカミと里山を考える会 | 全国 | |
| コア | 城之内 健一 | 利根川下流域と霞ヶ浦会 | 霞ヶ浦/利根川下流域 | ★ |
| コア | 梅室 政司 | ときがねウッチング | 東金市 | ★ |
| コア | 萩原 耕作 | 酒々井里山フォーラム/ NPO 法人環境パートナーシップちば | 酒々井町 | ★ |
| コア | 喜屋武 誠司 | 北総クルベジ事務局 | 四街道市 | |
| コア | 津本 純子 | ビオスの会 | 千葉市/四街道市 | ★ |
| コア | 中村 明子 | NPO 法人環境パートナーシップちば | 千葉市 | ★ |
| コア | 佐藤 聡子 | NPO バランス21谷当里山計画 | 千葉市 | ★ |
| コア | 金親 博榮 | わたしの田舎 谷当工房・谷当グリーンクラブ | 千葉市 | |
| コア | 平松 加代 | PRIYO handicrafts (プリヨ ハンディクラフツ) | 千葉市/首都圏 | |
| コア | 成瀬 悠 | フェアトレードちば/NPO ハロハロ | 千葉県全域/フィリピン /日本/全国 | |
| 北 | 今井 学 | 浦安三番瀬を大切にする会 | 浦安市 | ★ |
| 北 | 川島 謙治 | NPO 法人環境パートナーシップちば/温暖化防止うらやす | 浦安市 | ★ |
| 北 | 島野 圭司 | 温暖化防止うらやす | 浦安市 | ★ |
| 北 | 畑山 文恵 | ファイバーリサイクルうらやす | 浦安市 | ★ |
| 北 | 廣田 由紀江 | NPO 法人環境パートナーシップちば /しろくまキッズ | 浦安市/千葉県全域/ 東京都 | ★ |
| 北 | 横山 清美 | NPO 法人環境パートナーシップちば/浦安水辺の会 | 浦安市/千葉県全域 | ★ |
| 北 | 小堀 功 | 環境保全 とんがらし座 | 松戸市/千葉県全域 | ★ |
| 北 | 平野 将人 | 一般社団法人銀座環境会議 | 松戸市/千葉県全域 | |
| 北 | 矢野 眞理 | NPO 法人 谷田武西 (やたむざい) 原っぱと森の会 | 印西市 | |

| 拠点 | 氏名 | 所属団体 | 活動範囲 | ★ESD 地域 リーダー |
|----|--------|---|------------|--------------------|
| 北 | 柴田 加寿子 | ガールスカウト千葉県第63団 | 柏市/印西市 | ★ |
| 北 | 植木 恭子 | 柏段ボールコンポスト研究会 | 柏市 | ★ |
| 北 | 久保田 康雄 | NPO 法人千葉自然学校 | 柏市 | |
| 北 | 松本 さやか | ガールスカウト千葉県第12団 | 柏市 | ★ |
| 北 | 山田 殖保 | 柏市ストップ温暖化サポーター | 柏市 | |
| 北 | 村田 静枝 | ふろしき研究会千葉支部 | 柏市 | ★ |
| 北 | 鈴木 亮平 | 手賀沼アグリビジネスパーク推進協議会 | 柏市 | |
| 北 | 山内 可奈子 | 八千代エンジニアリング(株) | 白井市/全国 | |
| 北 | 浜田 靖彦 | まるごと印旛沼プロジェクト | 神崎町/印旛沼流域 | |
| 北 | 小倉 久子 | 印旛沼流域圏交流会/NPO 法人環境パートナーシップ ちば | 印旛沼流域圏 | ★ |
| 北 | 城 順子 | あこぎ GGA 里山の会 | 成田市 | ★ |
| 北 | 谷合 哲行 | NPO 法人環境パートナーシップちば | 船橋市/千葉県全域 | ★ |
| 北 | 桑波田 和子 | NPO 法人環境パートナーシップちば/ 八千代市はたの里づくり実行委員会 | 八千代市/千葉県全域 | ★ |
| 北 | 武田 みどり | 八千代はたの里づくり実行委員会 | 八千代市 | ★ |
| 北 | 鈴木 良嘉 | ち～ば国際教育ネットワーク (CIEN) | 千葉市 | |
| 北 | 山口 俊也 | プロデザインスタジオ | 南房総市/千葉市 | ★ |
| 南 | 重 政子 | NPO 法人環境パートナーシップちば/ ESD-J・ガールスカウト | 鴨川市/全国 | |
| 南 | 石松 成子 | 自然観察指導員、森林インストラクター | 君津市 | ★ |
| 南 | 竹内 聖一 | NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団 | 館山市 | |
| 南 | 沖 浩志 | シェア里山 ヤマナハウス | 館山市 | |
| 南 | 大境 順子 | ガールスカウト | 南房総市 | ★ |
| 南 | 神保 清司 | NPO 法人千葉自然学校/南房総市大房岬自然の家 | 南房総市 | ★ |
| 南 | 横山 武 | 安馬谷里山研究会 | 南房総市 | ★ |
| 南 | 笹子 全宏 | 安馬谷里山研究会 | 南房総市 | ★ |
| 南 | 出口 洋 | (株)三峰商事 | 南房総市 | ★ |
| 南 | 相川 千晶 | olaga /岩井駅前交流拠点 boces | 南房総市 | ★ |
| 南 | 前川 鎮男 | 個人 | 南房総市 | ★ |
| 南 | 栗原 猛 | 白浜地域づくり協議会「きらり」 | 南房総市 | |

(敬称略)

ESD推進ネットワーク概念図

持続可能な社会を目指して

持続可能な開発目標 (SDGs)



学校、地域、職場などで
ESDに取り組んでいる多様な実践主体
(ESD活動の現場)

ESDに取り組もうとしている
多様な主体(潜在的な活動主体)

ニーズ・成果共有
ESDを広めるため、深めるための動きかけ・支援

多数・多様・重層的な
地域ESD活動推進拠点
(地域ESD拠点)

ニーズ・成果共有
連携・支援

ESD活動支援センター
地方センター(全国8か所)
+
全国センター

協力団体

ESD推進に取り組む組織・団体と
協力・連携します。

ESD 活動支援センターHP より

◆このプログラムをお使いになる前には、以下ご注意ください◆

- ここに掲載したモデルプログラムの著作権は、作成者(作成団体)に帰属します。
- ここに掲載したモデルプログラムをご使用の際は、特定非営利活動法人環境パートナーシップちばに連絡願います。

ESD・SDGs プログラム ハンドブック

発行 特定非営利活動法人環境パートナーシップちば
発行日 2024年3月
連絡先 特定非営利活動法人環境パートナーシップちば
e-mail info@kanpachiba.com
電話 090-8116-4633
<http://kanpachiba.com/>